

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東大阪市中野南マンション計	階数	地上14F
建設地	大阪府東大阪市中野南	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、防火地域	平均居住人員	182 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2022年9月1日
敷地面積	946 m ²	作成者	長岡博之
建築面積	415 m ²	確認日	2022年9月1日
延床面積	4,400 m ²	確認者	長岡博之



ください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92 138 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
特になし		
Q1 室内環境 遮音性能の確保、ホルムアルデヒド発散材料 規制対象外建材の使用	Q2 サービス性能 耐用年数の長い材料の使用	Q3 室外環境(敷地内) 特になし
LR1 エネルギー LED照明器具の使用	LR2 資源・マテリアル 環境に配慮した材料や有害物質を含まない材料の利用	LR3 敷地外環境 特になし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R4-0071

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)東大阪市中野南マンション計画						
	建設地	大阪府東大阪市中野南						
	用途/区分	集合住宅						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B+	
①	CO2削減						3	
②	みどり・ヒート アイランド対策						2	
③	建物の断熱性						3	
④	エネルギー削減						4	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
	エネルギー消費量の報告						対象外	
【評価項目】								
	項目	評価内容					スコア	評価
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価					3.1	3
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価					1.0	2
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価					3.0	
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価					2.0	
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価					3.0	3
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価					3.8	4
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価					2.0	—
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	-
その他								
		技術の名称				考慮事項		
	先進的技術の導入							
	特に配慮した事項							